

## 令和5年度地域包括ケアに携わる多職種合同研修会

～「顔の見える関係」から「多職種協働」、そして「チーム北空知」へ～

第1回 ケア・カフェきたそらち 開催結果・評価

項目	内 容
1 目 的	北空知における地域包括ケアシステムの構築を目指して、地域の保健・医療・介護・福祉の関係機関・施設・事業所等において、患者や利用者、地域住民の支援に携わる多職種の関係職員が一堂に会することが困難な状況にあっても、互いの役割を確認・共有し、切れ目のない支援・サービスが提供される多職種連携の関係作りを構築する。
2 期待する効果・成果	○地域支援関係者、医療関係者等の多職種が情報交換・共有する関係性と環境が構築される ○多職種の交流の場を運営する組織ができる
3 日 時	令和5年11月15日（水）18：00～19：58
4 場 所	オンライン開催（ZOOM）
5 内 容	（1）話題提供 「弁護士さんに聞く！身寄りのない方の支援」 話題提供者 深川総合法律事務所弁護士 石井 洋文 氏 （2）グループワーク テーマ 「地域の高齢化によって変わってきたこと、私たちが感じていること」 カフェマスター 妹背牛町健康福祉課 末岡 崇 氏
6 出席者	医師7名、歯科医師2名、弁護士1名、薬剤師1名、看護職14名、保健師13名、介護支援専門員5名、介護福祉士1名、社会福祉士4名、ソーシャルワーカー2名、相談員3名、管理者2名、事務職2名、その他3名 <u>合計 60名</u>
7 結 果	（1）話題提供内容 ○自己紹介後、資料に基づき、「弁護士さんに聞く！身寄りのない方の支援」をテーマに情報提供をいただいた ○身寄りのない方は増加しており、対象者本人や施設・病院への支援として弁護士の立場でできること（後見制度や契約）を、事例を交えて詳細且つ分かりやすく説明していただいた。また、制度の限界や引き受け困難な場合など課題も併せて紹介された。前回のお墓事情もそうだったが30分では時間が足りなくアンケートからも「改めて話を聞きたい」「もう少し詳しく聞きたい」という声があった。 （2）グループワーク ○Chat1、Chat2とも9グループ編成し、1グループ4～9人のランダム編成とした（ホストとカフェマスターの2名を除いてグループ編成） ○カフェ・マスターから進行方法と、自己紹介（氏名・所属・職種・今年のマイニュース）について説明があった後に Chat 1 が開始され、休憩（5分）を挟んで Chat 2、全体共有へと進行された ○各 Chat の開催時間（Chat 1：30分、Chat 2：20分）が設定され、それぞれのグループメンバーのみで話し合い、設定時間により自動で全体画面へ戻ることから、集合研修時に見られる「会場の音で聞こえない」「話し足りず、なかなか終わらない」という状況はなく、集中して時間通りに進行がされた ○参加者はオンラインでの会話や、端末の操作に慣れてきている様子。個々の業務の中での身寄りのない方への支援で困ったこと等、仕事や私生活上での体験など意見交換することができた 内容は「介護申請者数が年々増加している。今後ますます介護支援に関わる人材確保が重要」「身寄りのない人の相談が増えてきた」「人口減、高齢化で公共交通や飲食店の廃止・閉店で不便」という意見や、「地域の特性上、高齢化しても車を手放せない」という状況の反面、「循環バスはガラガラ」など普段感じている地

	<p>域課題の事例などを話し合った。移送サービスの開設や施設の集約などの地域資源の今後についても展望を語り合った</p> <p>○カフェ・マスターの説明と全体のまとめがわかりやすく進行もスムーズだった</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

【小部会で振り返り】

○：達成できた    △：ほぼ達成・まあまあ良かったが課題あり    ×：達成できていない・良くなかった

項目	内 容
8 評価	<p>○地域の多職種連携の課題に即した企画だったか → 「        」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身寄りのない方は増えてきており、各所属でも考え方等困る事例が増えてきていると思うので、地域の課題には即した企画だと思いました。</li> <li>多職種連携の課題と考えると、顔の見える関係づくりを目的としているので、自由に話せるところが目的に即した企画だと思います。(○神薙)</li> <li>・他に優先する課題があるのではないかと。また、「顔の見える関係性」はできていると思われ、次の一歩を考えていく時期ではないかと。</li> <li>ケアカフェで、発言をしっぱなしの部分もあるが、内容の中に地域課題が多く含まれていたため、今後検討できるとよい。(△三井)</li> <li>・高齢で身寄りのない方が増えている中、その方を支える制度として成年後見制度や死後事務委任契約等のお話が聞けたことは、支援する上で参考にもなり地域課題に即した内容であった。共通の話題やグループワークを通して顔の見える交流の場になったと思います (○末岡)</li> </ul> <p>○テーマの選定 → 「        」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な話題ではあるが、専門職の話聞く機会は少ないことから、改めて終活について学ぶことができた。講義の内容は分かりやすく、具体的にどんな準備をしていくべきか実践に繋がる内容で良かった</li> <li>・講師の選定が先にあることで、限られたテーマしか決められない。また、内容的に「相談支援者向け」であり、多職種の全員が聞きたいものではないと思われた。(△三井)</li> <li>・参加者の多数が高齢者支援に関わる職種が多く、身近なテーマであったと思います。話題提供の内容がケアカフェでのテーマにもつながり、グループワークでどれくらい活発な意見がでたか参加者の感想も気になるところです (○末岡)</li> </ul> <p>○周知方法 → 「        」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来通りの周知とプラスして小部会メンバーの積極的働きかけがあったと思うので (○神薙)</li> <li>・郵送およびメールでの周知だが重複していることもあり、節約できる部分があると思われる。(△三井)</li> <li>・特に問題はなかったと思います。</li> </ul> <p>○会場の状況 → 「        」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ZOOM も定着してきたように思います。操作を担当する事務局は大変だと思います (○神薙)</li> <li>・コロナやインフルエンザも流行しており、ZOOM 開催が適切であった。(○三井)</li> <li>・概ねスケジュール通り実施することができたと思います。(○末岡)</li> </ul>

プロセス

- 小部会の打合せ・準備状況 → 「 」
  - ・事前に進行役の打ち合わせもあり、司会としては安心して当日を迎えることができました (○神薙)
  - ・効率よく打ち合わせができていたが、講師ありきであり、委員全体でテーマが決められないとモチベーションも上がらないとも考えられる。(○三井)
- 小部会のメンバーそれぞれの役割を遂行できたか → 「 」
  - ・メンバーの入れ替わりはあったが、役割分担もスムーズに決まり、負担が偏ることはあまりなかったのではないかと思います (○神薙)
  - ・事前の役割は全うできていたと思われる。(○三井)
- 参加者の状況 → 「 」
  - ・ZOOM開催となってからアンケート回収率が悪い傾向があり前々回58.3%だったことから今回はアンケート記入し終了とし68.0%だった。今回は記入⇒終了とはせず改めて要請したが前回より1.3ポイント減少した(40人/60人、66.8%)
  - ・参加者は、毎回の傾向で40歳～50歳代の出席が多く70.0%だったが、今回は若年層の参加もあり20歳代2名(5%)、30歳代で8名(20%)となった。
  - ・若手医師・研修医の参加(7名)、歯科医師(2名)の参加があり、医療・介護関係者の顔の見える関係をさらに広げる機会となったと思われる
  - ・リマインドメールで他小部会メンバー等に周知をかけていたが、テーマや内容が「相談支援者向け」であり、多職種向けとしてマッチしていないことにより、参加者が少なかったと思われる。また、研修会が多いことが他委員の負担になっているとも考えられる。そのため、他(小)部会との合同研修会でもよいのではないかと。(×三井)
  - ・まずは沢山の方に参加してもらおうというスタンスだったので、参加者も極端に減ることなく良かったかと思えます※当日の参加者数把握していないので、評価内容異なれば訂正願います。(○末岡)

結果	<p>○参加者数 → 「 」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定員100名としたが、申込みは55名、欠席は2名、直前の申込7名で60名となった</li> <li>・勤務市町別では、深川市39名(65.0%)、妹背牛町5名(8.3%)、秩父別町3名(5.0%)、北竜町5名(8.3%)、沼田町8名(13.3%)※</li> <li>・委員等別では、協議会委員等が20名(33.3%)、小部会委員9名(16.0%)、委員等以外31名(51.7%)と、委員以外が半数以上※だった</li> <li>・参加者のほとんど(80.0%)が、職場から参加した</li> <li>・同じ職場から複数名の参加があった</li> <li>・今回初めて参加したのは12名で30.0%(前回11.7%)だった</li> </ul> <p>○職種 → 「 」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な職種の参加があった</li> </ul> <p>○参加者の満足度 → 「 」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートから、楽しさ、有意義さ、役立ち共に「そう思う」とした回答が半分以上を占めていたが、反面、あまり思わない、思わないとする意見もあった。「様々な年代で話し合い共感でき、今後の参考になった」という肯定的な記載があった</li> <li>・オンライン研修は「便利でよい」35名76.1%で多くを占めるが、「話すタイミングが難しい」「意見交換は対面でしたい・しやすい」など既に浸透している状況でデメリットをあげる声もあった</li> <li>今後参加したいかについては、「参加したい」が82.5%(前回94.1%)だった</li> </ul> <p>○交流の場を手伝ってくれる人の確保ができたか → 「×」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回も質問への回答はなかった</li> <li>・引き続き運営協力員の世代交代を視野に入れつつ取り組んでいく事が必要</li> </ul>
まとめ	<p>○多職種連携をする上で、顔の見える関係性の構築とその継続が重要であり、ケア・カフェはそれらを実現するとともによいツールであり、少しでも多くの人に参加し北空知での連携がよりスムーズに行われるよう、今後も継続した取り組みと、関係者の「顔の見える関係」は一定の成果が出ているという委員意見もあることから違う角度からの検討が必要</p> <p>○弁護士から聞く身寄りのない方への支援というテーマと内容は、「後見制度」や「契約」など実務上で専門的な対応が詳しく説明され、相談支援者や入所施設・病院などでは非常に参考となる説明であった。また、併せて制度の限界や注意点もこれまでの経験から説明があった</p> <p>○オンライン特有の問題として、他グループの様子や雰囲気はわからないため、チャット終了後なるべく多くのグループ発表をし、全体で話題を共有できるように発言を促すこと、終了後の情報提供に協力を依頼することが必要</p> <p>○オンライン研修は今回で5回目となるが、アンケート結果からも意見交換は集合形式の方が良いとする意見を踏まえ、令和5年度第2回運営会議での協議結果に基づき基本は集合形式としながら状況に応じてオンラインに切り替える対応を行う</p> <p>注：文末が「※」となっている文中の数値は申込名簿から使用。それ以外はアンケートからの数値を使用</p>